

労働運動を振り返って

兵庫県・元ゼンセン同盟兵庫県支部次長・牛房 操

社会に出たころ

故郷の山河は、いつ帰っても何十年経っても変わらなく滔々と流れているが、時には気候の変化によって大きく変貌することがある。

組織は、環境の変化によって大きく変わる。昨今、人の心の様変わりには多くの人々が驚きを感じ、どうしてこんなに変わったんだろう。社会の変化に戸惑いを感じながらも、こうした偏重に毅然とした対応を求める声は極めて強い。……

戦後60年余あの“大東亜戦争”の苦い体験を決して風化させることなく、毎年8月を迎えると広島、長崎では、原爆による犠牲者の追悼式が行われ平和への誓いを新たにしている。また新しい記憶として阪神淡路大震災、更には新潟地震の出来事に対する対応策など決して風化してはならない。神戸では特に1・17と称して阪神淡路大震災犠牲者の追悼のイベントを実施している。

私たちは、このようにして、その時代の出来事を各自が自分の生活或いは将来設計の糧として大事に想い活動が続けて来ている。こうした想いや活動は大変重要な事であるが、日々を重ねるうちにマンネリ化或いは自己のコントロールに負けて疎かになり省略してしまいがちになる。正に風化せしめているのではないか。

労働運動もしかり……

思えば私の場合……終戦間もない時代、田舎でありながら田圃もなく畠は少しの耕作、“食うために働かねばならぬ”……岡山の田舎から、昭和25年5月、東洋紡績明石工場に入社、月の途中でもあったが、生れて初めての給料980円を貰った。(以後昭和34年の結婚そして53年の工場閉鎖まで給与明細は保管していたが……)

県外に出て3ヶ月、8月のお盆の帰省には何としても自分のズボンが欲しかった。それは田舎を出るとき、親父が進駐軍から払い下げて貰ったものを、私に長さだけを合わせてくれたダブダブのズボンをはいて来たものであったからで、若者にふさわしい紺のズボンは工場の売店で2,100円、4ヶ月月賦で買うことが出来た。この時代、如何に物価高か、そして賃金の位置付けが、どうであっか理解されると思う。そしてマーケットバスケット方式が当時の賃金要求の資料にも使われた時代である。

そんな中で起きた昭和25年の朝鮮動乱は繊維産業に特需ブームを巻き起こした。

工場では、フル稼働のため輪番制(毎日一つの組が休日)がとられ増産体制となった。あの多忙な厳しい時代の中で、今では考えられないが勤務が終わるまでの間にオヤツ(アイスクャンデー)が出たのは今でも懐かしい。

しかし、そんな日々も長くはなく動乱が終結すると今度は、その反動が起こって操短が始まり合理化という人員整理が始まった。

産業・企業を守る闘い

よく言われた繊維産業は時代の趨勢とは言いながら「増産と操短」の繰り返しであった。特に輸出相手国のアメリカの影響は大きく、輸出規制が一方的にかかり、労使あげ

て産業、企業を守るために繊維産業安定促進集会がゼンセン挙げて国会周辺のデモを行い、単組、支部からも結集の呼びかけがあり、兵庫県からも多くの仲間が夜行バスで参加したことも深い印象に残っている。この時ばかりは行動は別でも労使一体の思いであった。

別の面では、「生活していく、食うために働く労働者」。労使間では真剣な労働争議が多かった。年末を控え日本の伝統的文化行事の正月、そして冬を越すための一時金、当時は“越冬資金”または“越年資金闘争”とも呼び、工場正門前に執行委員や職場委員がタスキを掛けて「むしろ」の上に数十人が座り込みで要求を訴えた。今では全く見られないが、解決の後には社宅の前で隣近所での餅つき行事が見られたが、実に懐かしく正に連帯感あふれる光景そのものであった。

私は、結婚する25歳まで男子寮に住み、前記の光景をよく見せて貰った。寮生活中、自治会の役員と、組合では専門部員（教宣）となりカメラには不慣れであったが、輪読会とかサークル活動、体の機敏さには多少の自信もあり貴重な体験を重ねることができた。

労働運動の中で、左翼との闘いは昭和25～26年のレッドパージ事件、解雇問題、暴力行為もあって、怪我人も出た。そんな事件があって寮生の若手青年層は木刀（ぼくとう）を持ったり、工場正門には有刺鉄線のバリケードを作ったりの有様であった。

こうした活動の中では組合活動にも影響があり、当時の役員人事改選も多かった。現在のような役員になり手のないような時代と違って職場の中で立候補演説もあり“よし、わしがやる”という、議員選挙と全く同じやり方で有権者の職場組合員に対する票の取り込み運動が激しかった。

工場勤務は交替制で先番、後番、昼専の3組の勤務制に分かれ、定期大会以外にも緊急の議題が生じれば、番別に分かれて大会も多く開催されていた。番別も、通常の支部大会も全員参加の大会である。今のようにスムーズな運営に終わらず、緊急動議も多く、更に緊急動議に対する動議の提案もあり、役員は提案採決まで答弁に大変であったことも思い出される。日常の支部運営でも、代議員会の運営に当たっても執行部が議場から室外へ待機させられ、代議員会のまとめをし、執行部が議場に戻され代議員会の意見を逆提案される場面もあった。

従って、議長の役割も大変であるが、大会等の議事運営委員会の委員も議事が混乱する事なく時間設定の中で真摯な議論でスムーズに終わるまで気配りは大変であった。

残るも地獄、去るも地獄

ゼンセン全体の闘いの中では、近江絹絲の民主化闘争も記憶に残る闘いであった。

当時の労働4団体、特に運動路線で注目されていた全労（同盟）総評という路線の中でゼンセンの闘いは産別挙げての徹底統一行動と評されていた。私のいた明石支部でも、支部員から寄せられた多くの書物や衣類がダンボール箱に詰められ支部事務所の前に積み上げられ、また激励文、資金カンパも含め、確か近江絹絲彦根工場、他へ送られた。この民主化闘争は絶対に負けられない闘いであり、ゼンセンの各単組、支部挙げて闘った。更には近江絹絲の支部にも激励行動に参加した。全国の仲間からの支援対策、106日間の行動で民主化闘争は勝利に収束し、正に連帯感の勝利と言えるのではないだろう

うか。この頃は争議も多く室蘭など他産別の支援にも手を指しのべた。

今も心に残る“去るも地獄、残るも地獄”“未来永劫に組織は残る”とは言い切れない多くの産業、企業が時代の変化によって消えて行った。……たまらなくつらい……

私も多くの仲間を失った。同時に私も昭和35年、企業の合理化で工場閉鎖の対象となり、当時、三役として懸命に生き残りを掛けて業種転換、操業の短縮などで組合員の生活安定を求めた。提案直前に入社した組合員は何も知らずに、新しく夜間短大を目指して「働きながら短大を卒業したい」とすがりつかれ、本部にも意見反映をして役員と闘い、実に合理化対策委員会トータルで105回の会議及び交渉を重ねたが、グローバル化の中で産業・企業の体質が弱体化し、涙を呑んだニガイ体験は決して忘れるはしていない。熱い思いが届き、雇用と就学権は確保された。

今、合理化4原則は一般社会通念とされているが、UIゼンセンの基本は、これに加えて就学権が重要視されていることを記録していきたい。

県支部活動と連合アドバイザー

私は、当時の故穴井兵庫県支部長のご尽力により兵庫県支部で特に中小企業労組の組織充実の活動要請を受け、昭和53年9月より県支部のお世話になった。

……思い出の活動を順不同に列記してみると……

- ① 左翼活動に対する研修会と行動
- ② 経済闘争の中での座り込み行動とメーデーへの参加は義務づけ動員（欠席はペナルティ会費徴収）
- ③ 各種選挙の必勝、特に参議院選挙への票取り実践行動
- ④ 労働戦線激烈の中で各地区同盟でのゼンセン役員の奮闘（特に神戸）
- ⑤ 明石地区同盟の結成参画
- ⑥ 各種合理化闘争（中小労組含む）。組織化運動
- ⑦ ゼンセン兵庫OB会の再整備活動
- ⑧ ゼンセン地織部会の連帯基金の思い

このような活動等の思い出を中心に貴重な体験を先輩の方々に指導を頂き34年間労働運動に携わってこられた事に対し深く感謝申し上げます。

現在、連合兵庫で「組織拡大化アドバイザー」を非専従で受けていますが、内容は労働相談と組織化オルガナイザーの業務であり、数年間の体験から申し上げますと以下の内容である。

◆ 組織化について

- ① 自分本位で共に助け合いの気持ちが全く無く、企業から自分を守ってほしい。
- ② 日ごろから同僚とのコミュニケーションが少ないため組織化の相談を依頼しても連携が取れない。従って行動に消極的。
- ③ 家族の中でも同じ傾向で対話が進まない。
- ④ ルールに縛られることなく自由でありたい。
- ⑤ 現状を改善したい気持ちがあっても、それを求めていくチャレンジの行動力に欠ける。
- ⑥ 法的なもの（労基法、労組法、他）を知らない、知ろうとしない。

※ 従って、組織化に顔を向けるのではなく、個人加盟で守って欲しい。

◆ 経営側では

① 労働組合のイメージを昔と同様に持っている。理解しようとしない。

② 企業を私物化の感覚が大きい。

③ 法的感覚も薄く、会社の代理人（弁護士、社労士）任せである。

※ 第2世には“旅をさせて欲しい。他人の飯を食わせてほしい。”

※ 教育と体験の積み重ねに尽きる。

今回の投稿に当たり、兵庫で指名されたが、現在“シニア友の会”で活躍されているメンバーを是非紹介しておきます。

支部長 川田 清（東邦レイヨン）

幹 事 浜上 力（小泉製麻・兵庫高退連会長）

〃 立岩 康彦（日毛加印）

〃 蔦野 真澄（東洋紡ミラクル）

〃 田中 幸男（東レ）

〃 渡代 三郎（ユニチカ）

〃 籠谷 美穂（龍田紡績）

〃 有馬 哲朗（大和紡績）

〃 牛房 操（県支部・東洋紡績）

以上